

明海大学大学院応用言語学研究所主催  
浦安市教育委員会後援

## 第17回応用言語学セミナー

日時：2014年11月15日(土)

場所：明海大学浦安キャンパス

講義棟1階 2102教室

〒279-8550 千葉県浦安市明海1丁目

### テーマ：人と人をつなぐコミュニケーション

「コミュニケーション」がさまざまな社会問題に関連するキーワードの1つになっています。

人と人のコミュニケーションのむずかしさは会社など職場においてだけでなく、家庭においても深刻な問題となっています。また、商店街の衰退などによる、地域社会内でのコミュニケーションの欠如は日本社会の将来に大きな影を落としています。同時に、地域社会間のコミュニケーションも重要な社会的問題です。男女間のコミュニケーションも大切な課題の1つです。

巨視的な観点から言えば、グローバル化が進み、文化と文化の接触が日常的なできごとになりつつある現代社会にとって異文化との触れ合いにおけるコミュニケーションはかつてないほど現実的なものとなっています。

本研究科とのつながりが強い、外国語学部では今年度、Global Studies Major（通称、GSM）と呼ばれるプログラムを発足させ、ことにアジア地域とのコミュニケーションに重点を置いて、ことばの面だけでなく、多角的な視点からの教育・研究を指向しています。

いずれの形態のコミュニケーションにおいても、誤解や行き違いが生じやすいことは周知のところ。「コミュニケーション・ギャップ」が生じる原因をつきとめ、それに対する対処法を考えておくことも重要な社会的課題です。

このセミナーの講師をご快諾いただいた梶原しげる先生、久米昭元先生、田嶋淳子先生に、明海大学の鶴島俊一郎、中西太郎、原和也の3氏を加え、秋の一日を楽しい知的交流の場にしたいと考えています。

### ◆ ご挨拶

応用言語学セミナーは、今年で第17回目を迎えます。第1回を本研究科の設置された1998年に開いておりますので、本研究科が開設から17年目を迎えたことともなります。

このセミナーは本学の大学院応用言語学研究所を広く、多くの人に知ってもらうために始めた活動です。開催に当たり、講演者には本研究科の教員だけではなく、毎回のテーマに合わせて外部講師にもお願いいたしております。また、本研究科の学生も毎回準備段階から参加し、当日は教員と連携して会場運営を行っています。

回を重ねるごとに、広い領域の方々から期待を寄せられるようになり、その回が終わるごとに、次回に向けての準備を始めることが常となり、わが研究科の年間行事の中でも大きなウエイトを占める活動となっています。

本学の応用言語学研究所には、1「言語教育」、2「言語行動」、3「言語文化」の3つのコースが置かれています。

これまでの近3回の開催を見ますと、第14回（2011年）「言語の多様性と普遍性」、第15回（2012年）「語りの世界」、そして昨年の第16回が「現代における“ことば教育”はいかにあるべきか」と続けてきています。

前回までの開催テーマを鑑みて、今回は「言語行動」の領域でテーマを取り開催することにしました。

今回のテーマですが、左の趣旨説明にもありますように「人と人をつなぐコミュニケーション」といたしました。この領域の研究、教育は、明海大学の外国語学部、そして応用言語学研究所の重要な柱の1つです。

発表から活発な議論にもつなげていきたいと思っておりますので、多くの方々のご参加を期待しております。

明海大学応用言語学研究所長・外国語学部長  
遊佐 昇

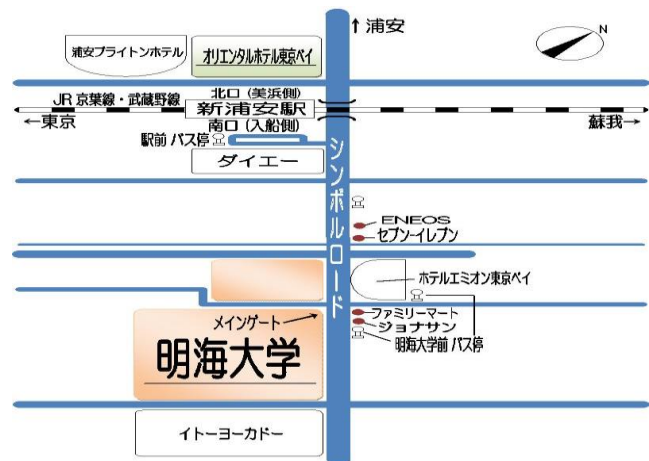
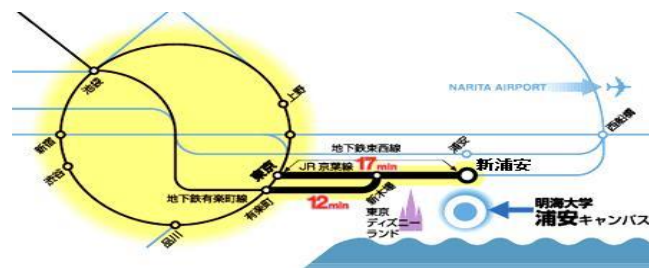
-明海大学応用言語学セミナーのホームページ-

明海大学 第17回応用言語学セミナー 検索

Meikai Applied Linguistics Seminar (MALS)

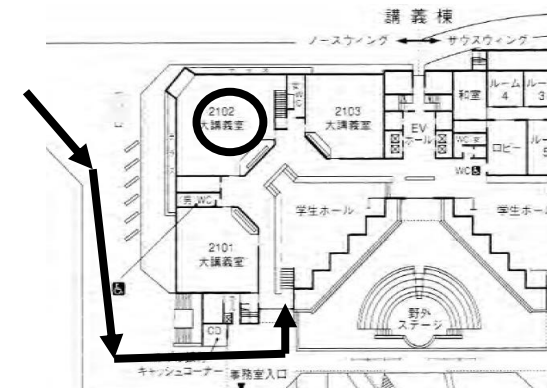
### ◆ 交通手段

東京駅よりJR京葉線・武蔵野線快速で約17分、新浦安駅下車。南口（入船側、ダイエー方向）からシンボルロードを通って徒歩約10分。または駅南口ロータリーのバス停から③④⑥⑦⑩番系統のいずれかのバスで約5分「明海大学前」にて下車。運賃150円。



### ◆ キャンパス略図

会場：講義棟1階 2102教室





## プログラム

**2014年11月15日(土)**  
**講演会場 2102 教室**

9:30 受付開始

10:00 開会

10:00-10:05 挨拶

遊佐昇(明海大学大学院応用言語学研究科長・外国語学部長)

前半司会: 佐々木文彦(明海大学教授)

10:05 - 10:55

中西太郎(明海大学外国語学部講師)

「コミュニケーション・ギャップの一因としてのことばの地域差」

相手の気持ちを慮り長々とことばを連ねて断る関西人、相手の時間を慮り短く断る東京人。近年、コミュニケーション・ギャップの一因としてのことばの運用実態の地域差が明らかになりつつある。それを踏まえ、私たちが、どういう態度でその地域差に臨み、どう解消するか、求められるコミュニケーション力のあり方について考える。

11:00 - 11:50

鶴島俊一郎(明海大学外国語学部准教授)

「中国語の交際方式と日本語の交際方式—口語教材の評価と私見—」

言葉による日常的な交際の最も基本といえる「あいさつ」と「あいさつ」的な簡単な応答は、それぞれの国、民族の文化を主な背景とするものですが、これを逆に言葉(中国語)

を分析しながら説明してみたいと思います。

中国語の初級会話の教材を使って分析を試みますが、まず最初に、どのような教材が適切であるかという点を確認してから説明をすすめたいと思います。

11:50 - 12:50 <昼休み>

12:50 - 13:40

梶原しげる(東京成徳大学応用心理学部客員教授)

「音で聞く言葉」

1970年前後の深夜放送ブーム当時、若者は饒舌だった。80年代半ばFM東京、J-WAVEを中心とするFM局がLESS TALK & MORE MUSICを打ち出し、ラジオ好きの若者にとって「しゃべりはださい」時代がやって来た。1990年代半ばから急速なデジタル化が進む。ラジカセはiPodに取って代われ、携帯がスマホとなるに連れ、ラジオは居場所を失った。しゃべる日本語は今どうなっているのだろうか?

後半司会: 嶋田珠巳(明海大学准教授)

13:45 - 14:35

田嶋淳子(法政大学社会学部教授)

「中国系ニューカマーズとエスニック・コミュニティの形成プロセスをめぐって」

本報告では、日中国交回復以降の40年における中国系ニューカマーズのエスニック・コミュニティ形成のプロセスを取り上げ、その特徴と問題点を他地域との比較を交えながら、紹介したい。

14:40 - 15:30

原和也(明海大学外国語学部講師)

「日本人の「会話の間接性尺度」における性差間の等価性の検証—多母集団同時分析を用いた測定不変性の検証—」

近年、コミュニケーション論の分野では、心理尺度を用いた調査において、集団間の等価性の問題が喧伝されるようになってきた。そこで、本発表では、Holtgraves(1997)の「会

話の間接性尺度」における性差間の計量的等価性(不変性)の検証を行う。項目分析から、平均構造・多母集団同時分析を用いた不変性の検証までの一連の分析過程を紹介し、異文化コミュニケーション研究における新たな可能性についても考察していく。

15:35 - 16:25

久米昭元(異文化コミュニケーションコンサルタント・元立教大学教授)

「コミュニケーション・ギャップはなぜ起きる?」

家族、隣人、友人、恋人、仕事仲間などとのコミュニケーションにおいて、互いに誤解したり、すれ違ったりしてうまくいかず、いらいらしたことはないだろうか。講演では、このような国内での比較的近い人々とのかわりも異文化コミュニケーションであるとの立場から、誤解やギャップ、軋轢がなぜ起きてしまうのか皆さんと共に考えたい。

16:30 - 17:30

総合討論「人と人をつなぐコミュニケーション」

司会: 石黒武人(明海大学講師)

閉会 挨拶 遊佐昇

18:00 - 20:00 <懇親会>

ホテルエミオン東京ベイ 22階 ルーチェ

参加ご希望の方は、お手数ですが11月7日(金)までに電子メール、FAXまたは葉書で、以下の①~⑤をお知らせ下さい。

①お名前 ②ご連絡先 ③懇親会参加の有・無

お問い合わせ: 明海大学応用言語学セミナー運営委員会

FAX: 047-350-5504

Email: gsalseminar@meikai.ac.jp